労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

２０１５年１１月２７日発行

Ｎｏ．５１６（第４７期９号）

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX　052-654-1210

http://aichirousan.web.fc2.com/

11/15 第14回東海ブロック雪崩講習会（机上）を実施しました

今年で第 14 回を迎える東海ブロック雪崩講習会（机上講座）が 11 月 15 日、愛知県勤労者山岳連盟の事務所で開かれました。

午前 9 時から参加者 35 名（うち岐阜県勤労者山岳連盟からは 9 名、愛知からは 25 名、残念ながら三重県、静岡県連盟からは今年は参加がありませんでしたが)、講師・スタッフ 11 名を合わせ 50 名近いひとたちで愛知県連盟の事務所はいっぱい。午前 9 時から午後 5 時まで、熱のこもった机上講座がおこなわれました。最初に洞井愛知県連会長が、「この講習会は、過去に起きた雪崩事故の教訓から生まれて、これまで創り上げられてきた講習会。雪崩に遭った場合にどう対処するか、という内容も含んでいるが、それらを含めて雪崩の基本的なメカニズムや冬山を構成する雪や気象、気温、行動技術などを学び、どうすれば危険を回避できるかを実践的に身につける機会。いい講習の一日にしてほしい」とあいさつ。午前中は、雪と雪崩の基礎知識、基本的なメカニズム、午後は、雪山を行動するうえで必要な地形と行動判断、コンパニオンレスキュー（ビーコンの電波特性や種類、ピンポイントでの捜索方法、プローブの使い方、パーティでの捜索の方法、パーティでのショベルの埋没者掘り出し法、低体温症での埋没者の処置）などの講習を行いました。

この机上講座に続いて、2016 年 1 月 23 日（土）24（日）に御嶽山麓一帯で東海ブロック雪崩講習会の実技を実施する予定です。

≪目　次≫

遭対部	11/15　第 14 回東海ブロック雪崩講習会(机上)を実施しました	1
巻頭言	本格的な冬に向けて、十分なトレーニングと学習を	2
遭対部	12/11 冬合宿遭対連絡会議を開きます／11/16 遭対担当者会議報告	3
婦人部	第 8 回女性のつどい「実践　山筋ゴーゴー体操総集編」は 12/3 に	5
組織部	組織数推移(2015. 8～10)、みんなで「登山時報」を読もう！	6
教育部	各回のホームページ担当者集合　11/20 第 5 回組織担当者会議	7
	10 月末、会員数は前期比 32 人増！	
	ＳＣＨＥＤＵＬＥ	8

巻頭言 本格的な冬に向けて、十分なトレーニングと学習を

愛知県勤労者山岳連盟　会長・理事長　　洞井孝雄

パリ市内で起きたテロでは129人もの死者が出ました。何の関係もない市民を無差別に殺害しつつ、「次はワシントンだ」と声明を出すＩＳ、当然のことながらフランスがＩＳ空爆、英国もシリア空爆の意向を示し、米、独、伊、露も対ＩＳの包囲網づくりを加速させています。殺し合いの連鎖が続きます。ミャンマーの総選挙では、アウン・サン・スー・チー氏のＮＬＤが圧勝しました。軍政から最大の課題である民主化への転換が期待されますが、まだまだ油断できません。

わが国では、新内閣が発足しても臨時国会は開かれないまま、「国民の理解は広がっていない」「丁寧に説明をしていく」といいながら、あの「戦争法」を強行採決したあと、ＴＰＰだ、原発再稼働だ、とやりたい放題。最近はメディアに対して圧力をかけて「当然だ」と平気で述べる厚かましさ。あの政府が集団的自衛権を容認し、憲法9条を解釈によって変更した際、内閣法制局内で議論した内容を記録した文書を残していないことがわかりました。公文書管理法では、行政機関の意思決定や事務、事業の実績を検証できるよう「事案が軽微なもの」を除いて文書作成が義務づけられているにもかかわらず、法律面で内閣を直接補佐する機関であり、政府提出の法案や政令案に欠陥や矛盾がないか審査する部署であるところがこのありさま。沖縄の辺野古新基地建設工事問題では、翁長知事が出した埋め立て承認の取り消しに対して、安倍政権は取り消し処分撤回のための代執行訴訟を起こしました。沖縄の民意を一顧だにせず米軍基地建設を進める、この神経は、自分たちの目的のためには人の命を奪っても平気なＩＳとかわらないんじゃないか、そんな気がします。一方で、安倍首相は「改憲」を主張しはじめました。国民が知らず知らずのうちにテロの標的になってしまっていた、なんてことになってしまいそうです。戦後70年の間で、平和主義、立憲主義、民主主義をこれほどバカにした政府はないのではないか、これまでもいっぱい悪い「政治屋」が政権を担当してきたけれど、今の政府と比べるとまだ「良心的」だナ、と思えちゃうほどです。何をしても、「国民は餅を食ったら忘れる」とまで言い放つ政府・与党の考えの根っこには度し難い「愚民政策」がずっとあるのですね。ミャンマーもそうですが、日本の「民主化」が必要です。

さて、11 月も終わりだというのに、まだ、雪が来ない！

12 月の第一週に予定されてにはいる氷雪技術講習会の実技も、山域をどこにするか、というより、予定通り年内に実施できるかどうか、悩ましいところです。今年は暖冬だ、といわれますが、今年だけの話ではなく、昨年の氷雪技術の実技も出発当日になって、前々日から雪が降り始めたスキー場に山域を変更し、新雪(深雪)の中でラッセルや生活技術、参加者みんなの人海戦術で踏み固めた雪面での行動技術と、四苦八苦の実施でした。記録によると 30 年以上も前の県連の氷雪技術講習会の実技は 11 月の中旬に実施されていますので、地球温暖化が確実に進んでいることはまちがいありません。暖冬でなくとも、冬は温かく、降雪も安定しない形でやってくる、そんな地球に私たちは棲んでいるわけです。かつて、各会の新人や初心者は、県連の氷雪技術講習会に参加することで、冬山の入り口に立ち、一般的に言われる 12 月から 2 月にかけての厳冬期に向けて、各会の合宿に参加する要件を整える、そんな順序を踏んだものでしたが、昨今は、十分な講習ができないまま、もしくは延期されたまま、冬山に出かけ、帰ってきてから講習会の実技に参加する、という、なんとも系統的ではない雪山登山をせざるをえない、そんな状況も生まれてき

ました。こんな時に限って、ドカ雪が降ったりすると、あちこちで行動不能に陥ったパーティーからＳＯＳが発信される、そんな事態が出来することになります。なによりも、冬山というのは一年に一度。何シーズンか入山をしているとは言っても、日数や経験を積む機会は限られます。しかも相当な悪コンディションを切り抜けたような経験がなくて突っ込んで、前述のような大雪に見舞われれば、お手上げ、です。ここ数年、凍傷の報告が続いています。慎重に、用心には用心を重ねて、冬山を楽しんでほしいものです。本格的な冬に向けて十分なトレーニングと学習を！

遭対部

12 月 11 日(金)、冬山合宿遭対連絡会議を開きます

【日　時】2015 年 12 月 11 日（金）19：30～
【場　所】県連事務所
【持参物】計画書各 30 部
【出席者】山行計画のリーダーまたは代理、各会の遭対担当者
※県連留守宅は、別途送付します。

11 月 6 日、第 4 回遭対担当者会議を開きました。

2015 年 11 月 6 日（金）19：30 から第 4 回遭対担当者会議が県連事務所で開かれ、15 山岳会 17 名が出席しました。
【出席者】西尾（くらら）、加藤（ちんぐるま）、三浦・望月（ふわく）、千田（スルジェ）、水谷（ありんこ）、嶋村（あつた）、洞井（半田 F）、石井・松本（東三河）、鈴木（みどり）、天池（アリス）、安江（ASC）、中野（じねんじょ）、河村（春日井峠）、安（同志会）、清水（東海）。

議題は、①事故報告、②何故事故が起きるのか？どうしたら事故を無くせるのか？③転倒・凍傷プロジェクト提言の具体化について、④事故事例集の作成について、の 4 点でした。主な内容は以下の通りです。

（1） 事故報告

代表者会議の前後にすでに昨年一年間の事故報告件数を数え、「非常事態宣言」を出したばかりでしたが、それ以後も事故報告が続いており、今期の事故報告は 17 件になってしまいました。

No.15. 懸垂下降中、落石を受けて足親指を負傷

【発生日時】2015 年 9 月 20 日（日）7：45 頃　　【山域・山名】北ア・奥穂高岳
【事故者】女性、42 歳　　【負傷の程度】右足親指着基節骨折
【事故の概要】南稜末端の尾根から取り付くが藪が濃く、撤退のため懸垂下降で下部へ降りることにした。先に 4 名降り、事故者が降りたとき、先行者よりやや左に寄っていたため少し振られる形となり、テラスにあった石（20X30cm）がロープに触れ落下、約 3m の高さから事故者の左膝に当たり右足に当たって負傷。すぐ雪渓上で応急措置し、1 時間くらい様子をみて自力下山した。帰って夜間救急を受診し骨折と診断された。
▲指摘・反省など

・先行者が 4 名もいたのに、降りたルートを見ていなかったのか？、見えなかったのか？
・先行者・上からの注意・指示が不足していた

No.16　カレ沢を渡る際に転倒し、手首を骨折

【発生日時】2015 年 10 月 17 日（日）10：10 頃　　【山域・山名】鈴鹿・釈迦ヶ岳
【事故者】女性、55 歳　　【負傷の程度】右手首の親指側・小指側のヒビワレ骨折
【事故の概要】若干の登り、小さなカレ沢（20～30ｃｍ）の上を渡るとき、つまずいて左前方に転ぶ、左側には約 1m位の岩があり頭も打つ。その反動で体が右に倒れて石の上に手をつき手首を負傷する。頭部は何もなかった。痛みがある程度だったので登山は続行した。途中患部が腫れてきたので湿布薬で冷やす措置をした。下山後、菰野町の救急病院を受診、右手親指付け根、同小指付け根の 2 箇所の骨折が判明した。
▲指摘・反省など
・どのような靴を履いていたか？
・本人の不注意だという報告だが、要因をそれだけで終わらせていたら、ここで報告する意味がない。事故を防ぐための率直な問題点の指摘が必要だと思う。
・トレーニングはしているか？

No.17　草に覆われた路面の凹凸に足を取られ、足首骨折

【発生日時】2015 年 10 月 22 日（木）13：05 頃　【山域・山名】長野県中央部・八子ガ峰
【事故者】女性、60 歳　　【負傷の程度】左足首の細骨骨折（全治 2 ヶ月位）
【事故の概要】スキー場の最上部を通過し山道へ入ったところは、平坦だったが、足元が草で覆われて路面の段差が見えにくく足首を挫いた（転倒はしていない）。少し異常を感じたがそのまま歩行を続けた。翌日、足のくるぶしが腫れて痛いので山行はやめた。24 日（土）医院を受診し、患部をギブス固定。
▲指摘・反省など
・草が茂っていて路面が見えないのに、リスクに対し安易だった。
・パーティの編成について、再検討が必要だ。
※なお、上記の他、7 月のクライミングの事故について、当該会から、詳細な調査報告がありました。

（２）「何故事故が起きるのか？どうしたら事故を無くせるのか？」を討議した（各会代表者会　　議で報告したように、半期で前期 1 年分の事故数を上回ったため）。
・会報の中で「非常事態宣言」を発するなどして、注意喚起している。事故の傾向：全て下山時に発生している、転倒が多い、高齢および山の経験が比較的長いものが多い。対策：ストックの正しい使用、ヘルメットの着用、荷物の軽量化、トレーニング、疲れの取れないうちに次の山行に出かけない、長い下りのコースに注意、自分の技術・体力に合わせた山行を。
・毎月、遭対部会を開いて、各シーズンの山行について、注意喚起している。
・いつも安全・安心登山を呼びかけている。ここ数年小さな事故が、入会 2～3 年目くらいの新しい会員に多い。
・山行では、リーダー・サブリーダー等が、必要なときに声かけをする。

（３）転倒・凍傷プロジェクト提言の具体化について、

・会の事故の殆どが転倒絡みで起きている。次回の安対部会で具体化を計る。

・講座で使った。ストックの安全な使い方について、2015 夏山フェスタでメーカーの「しなの」が 30 分とって講座を開いていた、一歩前進かも。靴・骨量・筋力関連がある。

（４）「事故事例集」の編集を急ぐことを確認した。

婦人部

第７回女性のつどい(第３回交流山行実行委員会)を開きました。

11 月 5 日(木)19 時から第 7 回女性の集いを開きました。このつどいは、交流山行に向けての、第三回実行委員会としての位置づけで、交流山行の資料つくりと 12 月 3 日の第 8 回女性のつどいについて話し合いました。参加者は 5 山岳会 7 名【木村(あつた)下山・二宮(みどり)稲垣・河村(峠)辻村(ふわく)西尾(くらら)】でした。

第８回女性のつどい『実践山筋ゴーゴー体操総集編』は 12/3 に

第 8 回女性のつどいを 12 月 3 日に開きます。これまで折に触れて行ってきた「山筋ゴーゴー体操」。その今年の総集編として、みんなで一緒に実際に山筋ゴーゴー体操をきちんと覚えましょう。講師として、県連登山学校の「体力・トレーニング論」を担当していただいている東海山岳会会長の井土さんに来ていただきます。

とき・ところ：12 月 3 日（木）19：00～21：00　県連事務所

講　師：井土伸一さん（東海山岳会）

参加費：500 円(資料代含)

登山に必要な筋をみんな一緒に鍛えましょう。教育部とコラボレーションの取り組みです。

多くの仲間の参加をお待ちしています。申込は各理事又は各女性委員まで。辻村 090-3445-4946。

11/7(土)・8(日)婦人部交流登山を実施しました。

１１月７日(土)・８日(日)、１泊２日で婦人部交流登山を実施しました。山域は山梨県の石割山、5 山岳会 15 名の参加でした。

まずは石割山登山口の４０３階段から縦走スタートです。本当は紅葉の合間から富士山がきれいに見える筈でしたが残念～。間もなく石割山の由来となった大きな割れた石のある石割神社に到着。狭い岩の割れ目を全員がそろって抜けた。この日は登山者が多くすれ違いにマナーは必須。流石に婦人部のマナーは行き届いていて気持ちがいい。頂上で裾野だけが見える富士山をバックに記念写真を撮りました。

昼食を済ませて、急坂を一気に下り、その後はほとんど尾根歩きで紅葉を思う存分満喫しながら平尾山・大平山を経て登山口下山。夕食後は交流会。山の歌を合唱したり、自己紹介をしつつ、山に対する思いや夢などを語って交流を深めました。

残念ながら二日名は生憎の雨模様。三興は中止して、忍野八海・御師旧外川住宅・浅間神社を参拝して帰ってきました。お疲れ様でした。

組織部

県連盟組織数推移(2015. 8～10)

加　盟　団　体	2015 年8月末現在			9月末現在			10月末現在		
	在籍会員数			在籍会員数			在籍会員数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
あつた勤労者山岳会	35	33	68	34	32	66	34	32	66
アリス山の会	3	4	7	3	4	7	3	4	7
犬山勤労者山の会マップ	19	29	48	19	29	48	19	29	48
おやこ山の会	3	6	9	3	6	9	3	6	9
春日井峠の会	22	20	42	22	20	42	22	20	42
かわせみ山楽会	6	1	7	6	1	7	6	1	7
じねんじょ山の会	31	27	58	31	27	58	31	27	58
スルジェ山の会	15	17	32	15	17	32	16	17	33
ちんぐるま	5	0	5	5	0	5	5	0	5
東海山岳会	27	8	35	27	8	35	27	8	35
名古屋ありんこ山岳会	20	15	35	20	15	35	20	15	35
名古屋 ASC	22	13	35	22	13	35	22	13	35
名古屋山岳同志会	60	45	105	61	48	109	61	48	109
名古屋山歩会	15	7	22	15	7	22	15	7	22
半田ファミリー山の会	34	48	80	35	46	81	37	46	83
東三河山ぽ会	89	92	181	89	92	181	89	92	181
低い山を楽しむ会	9	6	15	9	6	15	8	6	14
ふわく山の会	113	123	236	118	125	243	122	127	249
みどり山の会	10	23	33	11	23	34	10	23	33
山の会「くらら」	43	32	75	44	33	77	44	33	77
若駒山岳会	11	9	20	11	9	20	11	9	20
合　　計	592	556	1148	600	561	1161	605	563	1168

みんなで「登山時報」を読もう！

労山の機関誌『登山時報』の購読を呼びかけます。

愛知県連の購読状況は、2000 年度には登録会員 1479 名に対して 171 部でしたが、2014 年度(2015 年評議会資料)は、1272 名に対して 77 部でした。会員数に対する購読率は、10%以下、10 月の各回代表者会議以後、購読者の拡大を呼びかけてきていますが、まだまだ十分な取り組みになっていないのが現状です。この『登山時報』では、全国の労山会員の山域紹介、全国の仲間のさまざまな取り組みや会報の紹介、地図読み、トレーニング、山道具、エッセイなどの連載が盛りだくさん。とりわけ「地図読み」はナビゲーションの第一人者・村越真さんの監修、山の身体を考えるコーナーは『山筋ゴーゴー体操』の著者・石田良恵さん、「おススメ山道具」はカモシカ・スポーツの笹原芳樹さん（この連載からヤマケイ新書『体験的山道具・考』という本ができまし

た）などによる連載です。洞井会長の「どんな山がやりたいんだ？」という連載も今年 12 月号ですでに 20 回、会報に毎月転載している山岳会もあります。『登山時報』を購読し、みんなで創り上げていくことで、全国の先進的な活動の経験や登山に関する知識、さまざまな情報を幅広く共有することができます。反対に、情報が共有できていないために、県連からの呼びかけや訴えが何のことを言っているのか、わからない、そんな状況も生まれてきているようです。組織部では全国連盟から見本誌を取り寄せて各会に配布しました。各会で意識的に、また意欲的に、機関誌拡大に取り組んでいただくことを呼びかけます。

各会のホームページ担当者集合

１１月２０日（金）「第５回組織担当者会議」を開きました

第 5 回組織担当者会議を 11 月 20 日（金）に開きました。出席者は 10 山岳会 15 名[加藤（あつた)、北村　北川（くらら)、本田　井上（スルジェ)、平川（同志会)、江島（じねんじょ）脇田　菅沼　洞井　小栗（半田 F）白水（かわせみ)、弘中（春日井峠)、森島（ありんこ）大石（アリス）]でした。

会議では、以下の三つの議題について討議しました。

① ホームページの充実のために

② ９～１０月「プラス１運動」の状況

③ 「登山時報」の購読者を増やす活動について

ホームページについて各会から運営状況を出し合い、取り組みかたについて意見交流をしました。県連のホームページの更新や運営の在り方についても意見交換をしました。

「登山時報」の購読を呼びかける活動については、担当者が意識的によびかけるなどいくつかの会では動きがあるものの、全体的にはこれからの取り組みに待つ状況です。

「プラス１運動」については以下のような状況です。

10 月末、会員数は前期比 32 人増

「プラス１」の取り組みについて次のような報告がありました。

じねんじょ；11.1 公開登山開催、一般から 21 名の参加。入会希望者 1 名。参加者は高齢者が多い。スルジェ；9 月、10 月に公開登山開催、一般計 16 名参加、3 名入会。春日井；9 月に公開登山開催、一般 7 名参加、2 名入会。弥勒山に公開登山の報告チラシをおき、入会の呼びかけをしている。半田；9 月～登山講座（机上 5 回、実技 3 回）を開催。9 名受講、2 名入会。

総会から 8 ケ月を経過しましたが、この間に 111 名の入会者に対して 83 名が退会、1168 名が現在の会員数です。昨年の 10 月と比較すると 32 名の増で、総会時対比でも 28 名の増になっています。すべての会で「プラス１」を目指しましょう。

Schedule 2015～2016

2015年11月			12月			2016年1月		
1	日		1	火		1	金	
2	月		2	水		2	土	
3	火		3	木	女性のつどい⑧	3	日	
4	水		4	金	理事会 19	4	月	
5	木		5	土	氷雪技術実技	5	火	
6	金	遭対担当者会議	6	日	氷雪技術実技	6	水	教育担当者会議⑦
7	土	婦人部交流登山	7	月		7	木	女性のつどい⑨
8	日	婦人部交流登山	8	火		8	金	理事会 21
9	月	氷雪技術③	9	水		9	土	
10	火		10	木		10	日	
11	水		11	金	冬合宿遭対連絡会議	11	月	
12	木	自然保護担当者会議	12	土		12	火	
13	金	理事会 17	13	日		13	水	
14	土		14	月		14	木	自然保護担当者会議
15	日	東海Ｂ雪崩講習会	15	火		15	金	冬合宿遭対報告会議
16	月	氷雪技術④	16	水		16	土	↑氷雪技術講習会
17	火		17	木	自然保護担当者会議	17	日	↓　　実技予備
18	水		18	金	理事会 20	18	月	登山学校コーチ会議
19	木		19	土		19	火	
20	金	組織担当者会議	20	日		20	水	
21	土		21	月		21	木	組織担当者会議⑥
22	日		22	火		22	金	理事会 22
23	月		23	水		23	土	↑東海Ｂ．雪崩講習
24	火	氷雪技術打合	24	木		24	日	↓　会（実技）
25	水		25	金		25	月	積雪期救助訓練机上
26	木	教育担当者会議	26	土		26	火	
27	金	理事会 18	27	日		27	水	
28	土		28	月		28	木	教育担当者会議⑧
29	日		29	火		29	金	遭対担当者会議⑤
30	月		30	水		30	土	
			31	木		31	日	積雪期救助訓練実技

ご意見、ご用望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

http://aichirousan.web.fc2.com/　　e-mail:aichirousan@gmail.com

▲今年の「曜日」は巡り合わせが悪い。年末年始の合宿の日程も決めにくいらしい。▲雪がない。温かい。どんな冬になるだろうか？▲大阪では「維新」圧勝？！日本もどんな国になっていくんだろう？